

厚岸町におけるオオホシカメムシの記録

山本亜生^{※1}・奥寺繁^{※2}・伊藤佑悟^{※3}

Record of the southern stink bug *Physopelta* (*Neophysopelta*) *gutta gutta* (Burmeister, 1834) in Akkeshi, eastern Hokkaido, Japan

Aki YAMAMOTO^{※1}, Shigeru OKUDERA^{※2} and Yugo ITO^{※3}

オオホシカメムシ *Physopelta* (*Neophysopelta*) *gutta gutta* (Burmeister, 1834) (オオホシカメムシ科) は体長 15–19 mm の大型のカメムシで、橙褐色に黒紋を配した顕著な色彩が特徴的である (cf. 安永ほか 1993)。本種は日本、中国、韓国、台湾から東洋区まで広く分布し、国内における寄主植物はアカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Müll. Arg. (トウダイグサ科) のみが知られる (Souma & Ishikawa, 2021)。したがって自然分布域はアカメガシワの北限である宮城県・秋田県以南と考えられ、北海道には本来分布しない種といえる。

北海道では松前町の渡島大島 (小松ほか 2009) と館浜 (山本ほか 2024) で、南方からの飛来と考えられる個体が採集されている。館浜では 2020 年から 2023 年の間に複数個体が数度に渡って確認されており、北海道への恒常的な北上を繰り返している可能性が示唆されている。

著者の一人伊藤は、2024 年 8 月 28 日に厚岸水鳥観察館 (厚岸町サンヌシ) の敷地で、ライトトラップに飛来したオオホシカメムシ 1 個体を採集した (図 1)。当時は雨天で時おり小雨が降っており、日没後の 19 時頃からライトトラップの点灯を開始し、20 時頃に本種が飛来した。これは本種の北海道東部地域における初めての採集例であり、これまでの最北の記録となる。本個体は以下のとおり標本として北海道教育大学旭川校に保管される。

1 ♀, 厚岸町サンヌシ (Akkeshi-chô, San'nushi), 28. VIII. 2024, 伊藤佑悟採集, ライトトラップにより採集, 北海道教育大学旭川校保管。

採集地である厚岸水鳥観察館は、別寒辺牛川と大別川の合流点に位置し、別寒辺牛川河口からは約 1.5 km 上流の地点である。同施設の敷地は西側と南側がヨシが繁茂する河川に面し、北側には落葉広葉樹林に覆われた丘陵地が迫っている。

北海道においては近年、アカギカメムシ *Cantao ocellatus* (Thunberg, 1784) (キンカメムシ科) やツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus* (Walker, 1867) (カメムシ科) など、本来分布しない種の北上個体が多数採集されている (堀・野村 2021; 山本ほか 2024)。道東地域でも、2024 年には浦幌町および白糠町でアカギカメムシが確認されており (土屋ほか 2025)、またやや古い記録ではあるが、1995 年に羅臼町においてツヤアオカメムシの採集例が報告されている (竹本 1996)。このような事例は年々増加傾向にあり、確認される種数も今後さらに増加する可能性がある。これらの種の寄主植物は北海道に分布しないことから、北海道への定着の可能性は少なく生態系への直接的な影響は限定的と考えられる。しかし、気候変動に伴う地域の自然環境の変化を示す現象として、今後も注視する必要がある。

なお本研究は、厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金制度における助成を受けて行われた。調査の実施に際し施設使用の便宜を図っていただいた厚岸水鳥観察館 (厚岸町環境林務課) の澁谷辰生氏をはじめとしたスタッフの皆様、調査に協力頂いた荒井凌斗氏 (鷹栖町) にお礼を申し上げる。



図 1 厚岸町で採集されたオオホシカメムシ雌成虫

※ 1 小樽市総合博物館 Otaru Museum

※ 2 北海道教育大学旭川校 Asahikawa campus, Hokkaido University of Education

※ 3 旭川市立春光台中学校 Shunkodai Junior High School, Asahikawa City

引用文献

- 堀 繁久・野村昭英. 2021. 2020年秋に北海道へ飛来及び漂着したアカギカメムシ. 北海道博物館研究紀要, (6):1–10.
- 小松利民・国兼信之・井本暢正. 2009. 渡島大島の昆虫. *jezoensis*, (35):79–83.
- Souma, J. & T. Ishikawa. 2021. A taxonomic review of the genus *Physopelta* (Hemiptera: Heteroptera: Largidae) from Japan, Korea, and Taiwan, with a new record of *Ph. parviceps* from China. *Zootaxa*, 4951(3): 461–491.
- 竹本卓哉. 1996. ツヤアオカメムシ知床半島に現る. 後藤伸コレクションから. *かめむしニュース*, 3:11.
- 土屋慶丞・持田 誠・吉田水十華. 2025. 2024年の十勝・釧路地方におけるアカギカメムシ(カメムシ目キンカメムシ科)の記録. 浦幌町立博物館紀要, (25): 11–13.
- 山本亜生・堀 繁久・近藤直人. 2024. ツヤアオカメムシとオオホシカメムシの北海道からの記録. *Rostria*, (69):24–27.
- 安永智秀・高井幹男・山下 泉・川村 満・川澤哲夫. 1993. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類—(友国雅章監修). 全国農村教育協会, 東京.